

第 25 期第 5 回 自動運転と共創する未来社会検討小委員会 議事録

日時：令和 4 年 1 月 24 日 17 時～19 時

場所：オンライン開催

出席者（名簿順，敬称略）：大倉典子，小野悠，鎌田実，永井正夫，山川みやえ，田中和哉，中野公彦，栗谷川幸代，谷口綾子，藤井秀樹，中村彰宏，中村弘毅，ポンサートン・ラクシンチャランサク，和田真，宮崎恵子，有本建男，浅間一

参考人：久木田水生先生（名古屋大学），筒井晴香先生（東京大学）

配布資料（Zoomチャットにて共有）

自動運転技術の倫理に関する論点・課題の整理

議題

0. 第 4 回議事録確認

出席者として大倉委員を追記することとなった。

1. 話題提供

1.1. 自動運転倫理研究会について（筒井参考人）

筒井参考人から自動運転倫理研究会の紹介がなされた。ここの研究会は以前より国内の哲学・倫理学分野で自動運転技術の倫理に関連する議論を行っていた研究者の集う場として立ち上げられた。第 1 回の研究会は 2021 年 9 月に開催され，そこで行われた議論を踏まえた考察が 12 月に STS 学会で報告された。自動運転技術に関する倫理的課題の所在，応用倫理における位置づけや隣接・関連領域，都市・交通計画の大きな転換を前提とした将来像が主たる論点であった。直近の社会実装のための技術的・制度的調整に必ずしもとらわれない観点からの議論も重要であるという方針のもと，今後は自動運転技術に伴うデータ取得と情報倫理・プライバシーの倫理，移動の社会学との接続，すなわち社会学分野でのモビリティに関する議論を踏まえた，自動運転技術がもたらす新しい都市・社会生活に関する倫理的検討が考えられている。

筒井参考人からの話題提供ののち，複合領域の ELSI の考え方，必ずしも論理的・合理的とは限らない人間の情緒や感性を前提とした社会受容性の考え方，公平性の考え方などに関する議論がなされた。

1.2. ロボット倫理学・AI 倫理学の観点から見る自動運転（久木田参考人）

久木田参考人から，まず自動運転に倫理的な判断をさせることはできるかという観点で話題提供がなされた。倫理的・道徳的であるとは規範に従っているということとは異なる。規範に反する行動が規範の順守よりも道徳的であることさえある。道徳的な AI，ロボット

を作るとは、状況依存性が高く、共感を求められ、責任が伴う点で難しいとの意見が紹介された。続いて自動運転車によって起こされた事故の責任について話題提供がなされた。技術的人工物の間のインタラクションが複雑になると、システム全体の振る舞いを制御・予測できる人間はいなくなる。自律的機械はそれを促進する。そして巨大で複雑なシステムにおいては通常の運用の結果として事故が起きうる。このような状況で誰かを過度に責めるのではなく、システムの改善に注力すべきである。事故の究明と再発防止には透明性をもったデータの共有が極めて重要であり、先進的な企業にデータの独占をさせるべきではない。補償の責任は個人に帰するのではなく使用者、製造者、社会という受益者に分配されなければならないとの意見が述べられた。

久木田参考人からの話題提供ののち、リスク認知や社会におけるリスクの受容、誰かに責任をとらせたい人間の本質、法人の責任の考え方などに関する議論がなされた。

2. その他

次回は 2 月 24 日 13:00 から実施予定